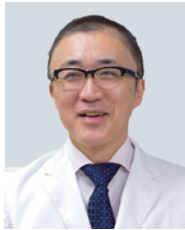




責任者からのメッセージ

小児科
教授 盛武 浩



「なぜ小児科を選んだのですか？」とよく質問を受けます。私の場合、“小児医療は「曙の医学」である”と学生実習中に先輩小児科医師がおっ

しゃった素敵なフレーズが胸に突き刺さり、小児科医になることを決めました。小児医療は、根治を目指し全力投球でき、その結果、病気を克服した子ども達が成人となり、少子化で苦しむ日本の救世主として社会へ羽ばたく姿をみられる喜びを実感でき、まさに「曙の医学」です。また、細分化された現代医療の中で「全身を診る」という学問的にも非常に満足度が高い分野です。共に宮崎の小児医療を担ってくれる、志の高い若い先生をお待ちしています。

プログラムの特徴

本プログラムは、宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、県立延岡病院、県立日南病院、都城市郡医師会病院、国立病院機構都城医療センターなどで研修し、小児科医として必要な健診などの一次医療から三次医療まで幅広い知識と診療技能を偏りなく習得することが可能です。異なるタイプの研修施設で種々の診療を経験し、指導・教育を受けることで、小児科専門医取得のための到達度を十分に満たすことができます。また、大学病院には、7つの専門グループ(血液・腫瘍、免疫・アレルギー、内分泌・代謝、神経・発達、腎・泌尿器、循環器、新生児)があり、それぞれの専門分野の知識や技術を活かし医療を提供しています。ほぼ全ての専門領域があることで、1人の患者さんに対し複数のグループで協力しながら適切な医療提供体制が構築されていることは、自慢できる特徴といえます。

連携施設名等

	施設名	指導医	専門分野・特徴
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	盛武 浩 教授、他13名	小児医としてヒトの成長と発達をみまもり援助するという心構えを確立する。小児科学のすべての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識と診療技能を習得する。
連携施設	県立宮崎病院、県立日南病院、都城市郡医師会病院、国立病院機構 都城医療センター、国立病院機構 宮崎病院		
関連施設	県立延岡病院、国立病院機構 宮崎東病院、都農町国民健康保険病院、宮崎市総合発達支援センター、愛生会日南病院、小林市立病院、高千穂町国民健康保険病院、京都府立医科大学病院、京都市立病院		

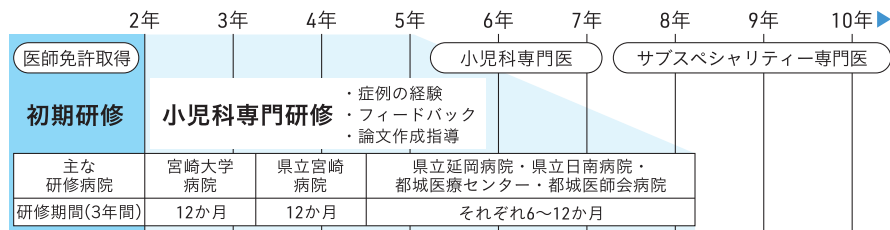
取得可能な専門医資格および技能

小児科医として必要な小児の診察、採血や腰椎穿刺、骨髄穿刺などの一般的な手技を取得するとともに、地域の一般病院の研修では、予防接種や乳児健康診査などの方法を学びます。さらに、各種専門領域では、

心臓超音波検査、心臓カテーテル検査、腎泌尿器超音波検査、腎生検、脳波検査、内分泌負荷試験、骨髄検査の評価、食物負荷試験などについて学び技能を習得できます。

専門医取得までのタイムスケジュール

専攻医登録後、1年目は大学病院で小児科医としての基礎的な考え方や技術を習得し、2年目からは、それぞれの研修病院を概ね1年ずつ研修することで、3年間の研修終了時には、小児科専門医の受験に必要な小児の主要な症候や新生児から各種専門領域の疾患を経験することができます。専門医受験には論文投稿が必要ですが、研修中に経験した症例をもとに指導医の指導のもと論文を作成することができます。



専攻医登録後、それぞれの研修病院を半年から1年間研修することで、小児の主要な症候や新生児から各種専門領域の疾患を経験し、3年経過したのちに小児科専門医試験を受験することができます。

プログラム達成目標

専攻医は3年間の研修によって、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医になることを目指します。そのため

に、それぞれの研修施設で担当医として、小児の急性疾患、慢性疾患、地域医療および乳児健康診査、予防接種などの小児保健・社会医学の研修などすべての領域について研修を行います。

主要症例名と実績数

肺炎や気管支炎、急性腸炎などの小児の一般的な疾病に加え、経験できる各種専門領域の主要な症例と年間の実績数は右の通りです。

血液・腫瘍領域	白血病(6人)、悪性リンパ腫(2人)、固形腫瘍(5人)など
神経・筋領域	てんかん(30人)、脳炎・脳症(10人)、発達障害(60人)など
循環器領域	先天性心疾患(80人)、心筋疾患(10人)、不整脈(5人)、難治性川崎病(5人)など
腎・泌尿器領域	ネフローゼ症候群(10人)、慢性糸球体腎炎(20人)、慢性腎不全(2人)、急性腎機能障害(5人)、先天性腎尿路異常(20人)など
免疫・膠原病・アレルギー領域	免疫不全症(2人)、膠原病(5人)、アレルギー(10人)など
内分泌・代謝領域	低身長(30人)、糖尿病(5人)、甲状腺疾患(10人)など
新生児領域(NICU)	超低出生体重児(30人)、人工呼吸器管理(60人)、新生児手術(40人)など

週間スケジュール（宮崎大学医学部附属病院の例）

時 間	月	火	水	木	金	土	日
～ 8:30	受持患者情報の把握				受持患者情報の把握		
8:30～ 9:00	抄読会・リサーチ報告	入退院カンファレンス	学生発表	休み	入退院カンファレンス	グループ 回診	休み
9:00～ 9:30	グループカンファレンス グループ回診				グループカンファ／回診	病 棟	
9:30～12:00	病 棟	病 棟	病 棟・外 来		病 棟		
12:00～13:00					薬理セミナー（不定期）		
13:00～17:30	病棟 学生・初期研修医の指導 血液腫瘍カンファ 腎泌尿器カンファ	病棟 学生・初期研修医の指導 全体カンファおよび 総回診	病棟 学生・初期研修医の指導 代謝・内分泌カンファ 神経カンファ	休み	病棟 学生・初期研修医の指導	休み	休み
17:00～18:30	患者申し送り				患者申し送り		
17:00～18:30	専攻医勉強会（2／月）				ふりかえり（1／月）		合同勉強会 （年3回）

※ 小児泌尿器合同カンファ(1／月)、循環器外科合同カンファ(1～2／月)を月曜日に開催

指導医からのメッセージ



准教授 此元 隆雄

宮崎大学小児科は、宮崎県全域へ医師の派遣を行いそれぞれの施設と連携をとりながら、疾病を持つ子どもたちの健康のため、小児医療の充実と発展のために日々頑張っています。私たちのプログラムでは、専攻医は中堅医師から直接指導を受け、さらに各専門分野の専門医・指導医とともに診断・治療行うことで最新の知見を学ぶことができます。女性医師も多数在籍しており、女性医師の様々なライフプランを医局全体で応援しています。小児医療に対する情熱をお持ちの方は、出身地、出身大学、男女問わず、いつでもご連絡ください。

先輩からのメッセージ



専攻医 宮本 拓

私はもともと救急を志して研修していましたが、子どもと向き合う医療に魅力を感じ、小児科へ転向しました。新たな分野への挑戦に不安もありましたが、医局の先生方が温かく迎え入れてくださり、安心して学びを深めることができています。小児科は、成長発達を支えながら家族とも関わる奥深い診療科であり、大きなやりがいを感じています。一緒に宮崎の子供たちのために頑張ることができれば嬉しく思います。



医局長 木許 恭宏

小児科の推しポイントはなんといってもこどもと楽しい時間を過ごせることです。外来の子はもちろんですが、入院している子でも比較的元気なこどももいるため、日常にこどもとの楽しい時間があふれています。医師であればどの診療科に進んでも大変なことが辛いことがあると思いますが、小児科の場合はそんなときでもこどもが元気をくれます。こどもが好きな人にはとてもお勤めの診療科です。また、小児科にはその中にたくさん専門領域があり、大学で専門性を追求していくことができますが、市中病院で小児科全般を診続けることもでき、将来の自由度が高いのも魅力のひとつです。宮崎のこども達の未来のために一緒に楽しく小児科医をやりましょう！



専攻医 三谷 修史

小児科は扱う疾患が幅広く、覚えることも多い診療科です。その中で、日常診療では先輩の先生方に丁寧なフォローしていただき、学会発表についても熱心に指導していただけるため、安心して学ぶことができます。採血、骨髄穿刺、腰椎穿刺、エコー、PICC挿入など、さまざまな手技を経験できるのも魅力です。子どもたちの笑顔や元気になっていく姿には、日々たくさんの方の力と癒しをもらっています。そうした経験を重ねる中で、自分自身も少しずつ成長できていると感じており、小児科のやりがいを実感しています。子どもたちの未来を守っていく仲間として、ぜひ一緒に頑張りたいです。

お問い合わせ先

担当：此元 隆雄

T E L：0985-85-0989

F A X：0985-85-2403

e-mail：konomoto@med.miyazaki-u.ac.jp

小児科HP

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/pediatrics/

